

事例検討会の紹介

第57回研究会では、40名の方が事例検討会に参加し、6グループに分かれて和気あいあいと活発にディスカッションを行いました。各自の事例、CNS活動における課題や困りごとなどの検討テーマと参加者からの感想、メッセージをご紹介します。

テーマ

- ◆ 看護外来としてのシステム立ち上げについて
- ◆ 治療を中断された患者への支援
- ◆ プライマリーが在宅酸素療法の指導に参画するにはどのように関わればよいか
- ◆ 看護外来で支援した間質性肺炎患者のACP、入院中の関わりにおけるジレンマ
- ◆ 精神科病棟での身体拘束・看護について
- ◆ 認知症のあるI型糖尿病患者のインスリン治療・在宅療養について
- ◆ CNSとして組織横断的な活動をするためにはどうすればよいか
- ◆ 施設入居中の遺伝性脊髄小脳変性症をもつ成人期女性の胃瘻造設の意思決定支援

感想・メッセージ

◆ 事例提供者

“自分の頭が整理された。対面の研究会なので有意義なディスカッションができた。もやもやした思いが晴れ、軽やかになった。慢性疾患看護CNSが近くにいないため、意見をもらえてよかった”

“CNSがない施設なので、同じCNSに事例を話すことで理解してもらえる”

“自分が困難に感じている事例を提供して、自分では考えていなかった視点での意見を聞くことができました。明日からの実践に活かしていきたいと思います”

◆ 参加者

“対面の事例検討では意見が述べやすく、他者の実践を知ることができ楽しかった”

“同じCNSの視点を持った方と討議でき有意義な時間を持てます。ぜひ一緒に共有しましょう”

“刺激を受けます”

“異なるサブスペシャリティの人の話を聞くことで勉強になります”

“現場で困っている事例について自分では目を向けることができなかったことに気づくことができよかったです”

“病棟ではできない質の高いディスカッションができました”

“様々なサブスペシャリティの方、経験が豊富な方との意見交換はとてもよい学びの機会となります”

“様々な経験をもつ同じ CNS と、患者さんについて話をする機会はとても貴重だと感じています”

“色々な現場で活動している CNS と話しをすることで自分と違う視点の捉え方を知ることができてよかったです”